

SPARC Japan 第 3 期事業のまとめ（案）

1. 第 3 期の基本方針

「我が国の特色に見合ったオープンアクセスを実現する」ことを目標とする。

- ・我が国の特色に見合ったオープンアクセスを，学会と図書館が協力して推進する。
- ・学会と図書館を，オープンアクセス推進の車の両輪と捉える。

2. 第 3 期の当初課題と評価

(1) 高次の学術コミュニケーションを実現するための体制

- ・学術コミュニケーションの主役たるべき研究者が主体的に関わる機会が少ない。
 - ・研究者，学協会，大学図書館等のステークホルダーが協働し，それぞれの学術コミュニケーション活動を高める機会・場がない。
 - ・学術情報流通がますますグローバル化する中で，国際連携が更に重要となっている。
- 実現方策：①日本版 UKSG 準備活動 ②アドボカシー活動

各ステークホルダーの意見交換の場としての SPARC Japan セミナーを通算 21 回，開催した。第 2 期に比較して大学図書館の参加は増加したが，研究者の参加数は伸びていない。研究者との連携については，引き続き，模索する必要がある。

大学図書館については，国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書において，「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」という事項が挙げられたことにより，大学図書館と国立情報学研究所の連携のもとでの課題解決を図る体制が整いつつある。この枠組みの下に SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics)にも取り組んでいる。一層の連携強化が望まれる。

(2) オープンアクセスについての共通理解とビジネスモデル

- ・第 3 期の大方針として「オープンアクセスの推進」を看板に掲げ，我が国の特色に合ったオープンアクセスを実現することを目標としているが，共通理解が得られていない。
 - ・我が国の学協会誌の特色に見合ったビジネスモデルが未だ確立されていない。
- 実現方策：①日本版 UKSG 準備活動 ②アドボカシー活動 ③電子ジャーナル出版活動の展開支援活動

SPARC Japan ニュースレターの発行，SPARC Japan セミナー，専門的トレーニングコースの実施等により，学協会に対してオープンアクセスの理解を得るための場を提供し，一定の成果を上げた。UniBio Press のような電子ジャーナルパッケージの成立に加えて，Progress of Theoretical and Experimental Physics (PTEP)のようなオープンアクセス誌

も登場している。

大学図書館においても、アドボカシー活動の成果としてオープンアクセスへの理解が浸透しつつある。一方で、学術情報流通のビジネス環境が変化する中で、オープンアクセスの普及活動だけではなく、オープンアクセスをめぐる課題を把握し、対応について検討することが求められる段階となった。

(3) 日本の学術誌の基礎的情報の把握

・日本の学協会誌全体を俯瞰するための、学協会誌に関する定量的・基礎的情報の把握・評価ができていない。

実現方策：①日本の学協会誌基礎情報整備活動

『日本の学術論文と学術雑誌の位置付けに関する計量的調査分析』(平成 22 年 12 月),『あるべき学術情報発信の姿を求めて』(平成 23 年 8 月)を刊行し、基礎情報の把握のための調査分析を行い、基礎情報把握のための方法論について知見を得た。方法を確立することが可能かを検討し、定期的な数量把握をすることが肝要である。加えて、学術情報流通の促進のためには、日本の学協会誌だけではなくオープンアクセス誌全般について、利用・投稿実態についての基礎情報の把握も必要である。

(4) 国内学協会誌の発信力強化

・パートナー誌のパッケージ化、コンソーシアム契約成立数が伸び悩んでいる。
・パートナー誌以外への成果の普及が不十分である。

実現方策：①電子ジャーナル出版活動の展開支援活動

SPARC Japan の初期の目的であった英文パートナー誌 45 誌の電子ジャーナル化は完了した。国際学会等における合同プロモーションを実施し、契約増加のための活動を実施した。この活動にはパートナー誌以外の参加もあり、学会の自律的な活動が促進された。

3. 第 4 期に引き継がれる課題

- ①国際的な OA イニシアティブとの協調
- ②オープンアクセスの課題の把握と体制整備
- ③オープンアクセスに関する基礎的情報の把握